

## 患者さまへのお知らせ・お願い

### 初診(再診予約外)受付時間等変更のお知らせ

紹介状をお持ちでない初診患者さまおよび再診患者さまの受付時間等を、下記のとおり変更いたしました。

#### 【変更内容】

平日の初診(再診予約外)受付時間(診療科によって、終了時間が異なる場合がございます)

【現行】8:30~14:00      【新規】**8:30~12:00**

紹介状をお持ちでない方の初診予約の廃止

メンタルケアセンターを除き、電話・FAX・E-メールでの予約受付を廃止とします。

予約センター受付時間

【現行】13:00~17:00      【新規】**9:00~17:00**

予約電話混雑解消のため、受付時間を拡大いたしました。

予約に関するお問い合わせは、初診受付 045-949-7150    予約センター045-949-7489    まで。

### ロビーコンサートのお知らせ

- ◆ 2月 6日(水) 渡辺 静さん他 (ピアノ演奏会 連弾)
- ◆ 2月 22日(金) 埜(たお)真美さん他 (ピアノ演奏会 連弾)
- ◆ 3月 14日(金) 戸嶋郁子さん・市川恵美さん (ピアノ演奏会 連弾)
- ◆ 3月 27日(木) 遠藤 美香さん他 (フルート演奏会)

中央棟 1階会計前ロビーにて、19:00より開催いたします。30分間の演奏会です。是非、お越しください。

コンサート予定表は、各病棟掲示板および会計前ロビーにて掲載しております。

曲目につきましては、コンサート当日、会計前ロビーにて掲示いたします。ご確認ください。

## 患者様からのご意見・ご要望

日々患者さまより頂きましたご意見・ご要望に関しては関連する部署の責任者に報告しております。改善すべき点や取り入れたほうが良いことなど出来る限り対応したいと考えております。ご意見の中で特に危険なこと、多くの方が希望していることを優先に対応したいと考えております。もちろん少数意見も対応させて頂いております。

前回に引き続き、今までのご意見の中で多くいただいたものや最近よくいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせください。 ( = 進捗報告)

ご意見・ご要望	改善等
予約受付時間について	『電話で予約しようとしたが、何回かけても混雑しており、電話予約が機能していないばかり。改善するか、電話予約のシステムをやめて欲しい。』と複数のご意見をいただきました。 大変ご不便をおかけし、すみませんでした。改善検討を行い12月より受付時間を拡大いたしました。 受付時間 <b>9:00~17:00</b> 午前中も予約受付可能としました。それでも時間帯や曜日によってつながりにくいこともございます。ご理解のほどよろしく願いいたします。
ファックスについて	『有料でかまわないので、FAXをどこかに設置してほしい』とのご要望をいただきました。 売店内に設置してありますので、ご利用ください。ただし、送信のみの使用に限ります。受信サービスは行っておりません。 送信料...1枚50円    取扱サイズ...最大A4版    利用時間...売店営業時間内 ご利用の際は、売店スタッフにお声かけください。

### 編集後記

皆さんはどのように新年をお過ごしになったのでしょうか？  
1月も後半となりまして、今までが暖冬と言われていたせいでしょうか？ 冬ってこんなに寒かったかしら???と思うほど、身に染みる寒さを感じます。

さて、この冬のインフルエンザの流行は、例年より早くから始まりました。そろそろ落ち着く頃かと思いきや、院内では、いまだに検出は持続しております。うつらない・うつさないためにマスクの着用等の予防を心掛けましょう。

何と言っても健康第一!!! 始まったばかりの2008年、気分一新、目標新たに元気に力いっぱい頑張りましょう。

広報委員会 委員 堀ノ内陽子

北部病院だより 第48号

平成20年2月1日発行

発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 島田 誠(広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』が参照できます。

# 北部病院だより

# 第48号

第48号【2008/2/1 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

### 巻頭言

『甲状腺ホルモンって、女性ホルモンですか？』  
～内分泌外科の役割について～  
外科 准教授 福成 信博

### イベント情報

BLS・ACLS講習会

### 医師の配属・異動・退職

### 診療統計

### 外来担当表

### 患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサートのお知らせ

### 患者様からのご意見・ご要望



向かう先には何があるのかしら???

## 巻頭言

### 『甲状腺ホルモンって、女性ホルモンですか？』

～内分泌外科の役割について～



外科 准教授 福成 信博

甲状腺ホルモンって女性ホルモンのこと?」「ステロイドホルモンと関係があるのですか?」このような質問を外来でたびたび受けます。ホルモン(Hormone)とは、動物の体内において、ある決まった器官で合成・分泌され、体液(血液)を通して体内を循環し、別の決まった器官でその効果を発揮する生理活性物質のことを呼びます。さすがに病院で「ホルモン焼き」のことを話す方はおられません、皆さん「ホルモン」という言葉に偏ったイメージを持たれている場合が多いようです。それだけ性ホルモンやステロイドホルモンといった話題が新聞などに掲載されることが多く、印象が強いものだと思います。私が専門としている内分泌外科とは、ホルモンを体内(血液中)に分泌する臓器-内分泌臓器を対象とするものです。ちなみに内分泌に対する言葉としてホルモンを体外(消化管の内腔を含む)に分泌する「外分泌」という言葉もあります。内分泌外科が一番多い患者さんは甲状腺の病気ですが、甲状腺以外にも副甲状腺(カルシウム調整のホルモン分泌を司る臓器)や副腎、膵臓などの病気が対象となります。内分泌臓器としては、脳の下垂体、卵巣なども含まれますが、それらは脳外科、婦人科で担当されています。それぞれの臓器で様々な病態を呈しますが、人間の体の中のホルモン代謝調整は脳からの指令で各臓器が必要なホルモンを作りだし、体の中にそのホルモンが分配され、その時の状況に足りているかどうかの情報を司令センターである脳に送りかえすことで上手く調整されています。これを「ホメオスタシス」と呼び、ストレスになりうる外界の環境の変化に対して、生体を安定した恒常の状態に保とうとする仕組みができています。この状態に何らかの異常が起きている場合、内分泌疾患異常ということになり、その場合には司令センターである脳、下垂体の異常もあれば、ホルモンを産生する工場である甲状腺などの異常、そして稀ではありますがホルモンの分配における異常(ホルモン受容体の異常)などが含まれます。ですから、ホルモンの病気といっても脳から出される刺激ホルモンや各臓器によって様々な数多く種類があり、病気の種類によってはその検査は複雑を極め、1つの臓器だけではなく、体中の臓器との関連を考えなければいけない状態となるのです。わかりやすい例を提示しましょう。

『58歳 女性 最近疲れやすく、足のむくみ、便秘、冷え性に困っています。健診でコレステロールが高いといわれ心配です』  
このような訴えは非常に多く、更年期障害、高脂血症として扱われていることが多いのですが、実は甲状腺機能低下症に起因するものが少なからず含まれています。最近では検診などでも血液検査で甲状腺刺激ホルモン(TSH)を測定される機会もふえ、臨床的には発見されることも多くなってきていますが、未だに甲状腺の病気とは判断されずに、放置されている場合もしばしば見かけます。また最近の海外からの報告では甲状腺機能低下症の場合は、正常人に比べて「ウツ状態」になりやすいという報告もされています。甲状腺機能低下症は、甲状腺ホルモン剤(チラーゼンS)の投薬で調整することは可能ですが、甲状腺自体のホルモン産生低下(橋本病)以外にも、わかめ、昆布などのヨード多量摂取や他のお薬によって2次的に甲状腺ホルモンが低下している場合もあり、適切な診断が欠かせません。またホルモン剤の投与自体に関しても、過量投与により心臓への影響や骨塩の低下(骨粗鬆症)を引き起こすこともあり、十分な注意が必要です。

内科的な話に終始してしまいましたが、外科医としての内分泌外科、甲状腺外科の仕事のメインは、やはり甲状腺腫瘍の診断と治療です。しこりがあれば、「悪性の疑い」として何でも手術するのではなく、その方に合わせた適切な治療方針を組み立て、最善の治療を行うことが外科医の最終的な使命ですから、手術以外の治療法に関しても、最新の方法を積極的に取り入れた治療を行い、手術に関してもできる限り身体に影響の少ない方法を導入しています。また、手術を受ける患者さんの80%以上は女性の方であり、どなたも頸の手術痕を気にされますが、できる限り小さな切開法で十分な手術成績を上げることができていますので、心配されている方は、いつでもご相談ください。内分泌、甲状腺の診断、治療は10年前と比較しても、画像診断、血液検査、手術器具に関して飛躍的な進歩を遂げています。特に画像診断では2-3mmの微小癌を見つけることも容易な時代となってきています。このような医療技術の進歩に合わせた適切な診断と治療を今後も行っていきたいと考えています。

